

巻頭言

地域の“健幸”活動への貢献に期待

足利工業大学副学長 末武 義崇

足利工業大学看護学部が平成 26 年 4 月にスタートしてから、間もなく丸 3 年が経過しようとしております。今年の 4 月からは、いよいよ完成年度を迎えることになり、看護学部の教員の方々および学生の皆さんは、例年にも増して引き締まった心持で教育・研究に、そして勉学に励まれていることと思います。

こうした中で、足利工業大学看護実践教育センターの看護学研究紀要も巻を重ね、第 5 巻が刊行されることになりました。看護学部の完成に向けて、教育・学生指導に注力されている傍ら研究活動にも励まれ、その成果の一端を研究紀要という形で着実に纏めてこられた先生方のご努力に、敬意を表すると共に足利工業大学の一員として感謝申し上げる次第です。

さて、学問分野としての看護学が、我々の健康の維持・促進に直結した分野であることは論を待たないわけですが、それ故に地域社会の“健幸”に大いに寄与することも、看護学の重要な使命の一つと考えられます。“健幸＝ウェルネス”とは、「個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできる」と定義され、新たなまちづくり政策の中核に位置付けられている概念です。我が国が直面している超高齢化・人口急減によって生じる様々な問題に対し、危機感を共有した自治体の首長や大学の研究者が集まってスタートした研究会が平成 21 年に提唱した考え方で、現在は“Smart Wellness City 構想”として、全国の自治体に理念や活動が広まりつつあります。

本学の所在地である足利市も、平成 28 年 4 月に「スマートウェルネスあしかが」事業をスタートさせ、生活習慣病予防の普及啓発活動を含む様々な活動に取り組んでいます。看護学部長の山門實先生も、指導的な立場でこの事業に積極的に関与されています。本「看護学研究紀要」第 4 巻の巻頭言においても、山門学部長が“足利市民の健康寿命の延伸”に言及されております。本学が主催する「市民公開講座」においても、平成 28 年 11 月 24 日に和泉聡足利市長を講師としてお招きし、『足利市のすすめるスマートウェルネス事業の現状と今後の展望』と題して講演会を実施しました。このように、官と学とが連携し、まちづくりと市民の生活習慣病予防とが一体化した事業が推進されつつあります。こうした中で、足利市を中心とした地域医療活動に資する本学看護学部の役割に、大きな期待が寄せられていることは間違いありません。

本学看護学部が置かれているこうした恵まれた環境を活かし、地域に根差した特色ある研究活動が進められ、「看護学研究紀要」を通じて情報発信されると共に、看護学部で学ぶ学生諸君の教育に大きく寄与されることを願っております。